



## 世界最大の水ビジネス企業誕生か？ ヴェオリア、スエズを敵対買収



[グローバルウォーター・ジャパン代表 国連環境アドバイザー]



吉村 和就

フランス企業ヴェオリア・エンバイロメントは、同国のスエズ・グループを113億ユーロ（約1兆3900億円）で公開買付けにより完全買収すると宣言した。既にその第一歩としてフランスの多国籍電力会社エンジー社からスエズ株式29.9%を34億ユーロ（約4200億円）で10月5日に取得している。

仮にスエズ・グループの完全買収に成功すれば、ヴェオリア社は世界最大の水ビジネス企業となり、売上規模は410億ユーロ（約5兆円）を超えるものとみられている。なぜ完全買収なのか。

ヴェオリア社の会長兼CEOアントワヌ・フレロは声明の中で「天然資源の枯渇と気候変動の状態を考えると水環境改善の緊急性は、これまで以上に強くなっている。我々の動き（世界的なチャンピオンを目指す）は世論、欧州グリーンディール、さらに多くの国から必要とされている」、さらに「スエズとヴェオリアの非常に堅実なスキルを組み合わせることで、世界的な競争激化に直面しても、新事業の開発を大幅に加速し、フランス、欧州、世界の産業が抱える21世紀の環境課題解決に対応できる」と述べている。

100年以上ライバルとして戦ってきたスエズは、ヴェオリアの闊

討ち的なアプローチに対し当然、猛反発。10月6日のプレスリリースで「ヴェオリアによる買収は敵対的であり、我々は従業員、顧客、すべてのステークホルダーの権利と利益を守るために、買収や事実上の支配を避けるために最大限の努力を果たす」と宣言している。フランス国内でも意見が二分している。ジャン・カステックス首相は「いかなる提案も雇用を維持し、水と廃棄物の独占を避けるべきだ」、またブルーノ・ル・メール経済・財務・復興大臣は「両社に落ち着いてスエズの支配に関する解決策を見つけるように要請」、さらに「2つの美しいフランス企業間の争いを、世界に提供することは止めよう」とテレビを通じ助言している。フランス国内のみならず、世界中が、この敵対買収劇に注目している。

### 1. 水メジャーと呼ばれるヴェオリア、スエズ社の現状

過去の3大水メジャー（ヴェオリア、スエズ、テムズウォーター）からテムズが脱落し、現在はヴェオリア・スエズの2強状態になっている。両社の概要を見てみよう。

#### 1) ヴェオリア

水、廃棄物、エネルギー管理の

3つの事業分野におけるソリューションを設計・施工および維持管理ビジネスで提供。水分野では世界9800万人に水道サービス、6700万人に下水処理サービスを行っている。従業員は世界で18万人、総営業結果（EBITDA）の売上高は270億ユーロ（約3兆3210億円）、利益は40億ユーロ（約4920億円）である。

#### 2) スエズ

スエズは水道事業や電力事業、ガス事業を行っている。その歴史はリヨン水道会社とスエズ運河会社が合併し誕生、2006年フランスガス公社（GDF）と合併声明、2008年の合併後にはGDFスエズ（現：エンジー）と水道事業を担うスエズ・エンバイロメントに分割された。スエズは、水道事業では世界1億4500万人に配水し世界的なリーダーである。

従業員は8万9千人、売上高は180億ユーロ（約2兆2140億円）、利益は30億ユーロ（約3690億円）である。

#### 3) エンジー社の動き

フランスに基盤を置く電気・ガス事業者（主要株主はフランス政府で36%保有）で、世界70カ国に拠点をもち、従業員は約15万人、売上高は606億ユーロ（約7兆5千億円、2018年）。電力・ガス供給で世界第2位の売上高を持つ。前述のように2008年フランスガス公社（GDF）とスエズの合併によりGDFスエズの社名で成立し、2015年にエンジーと社名変更している。スエズ株を35%所有し、このうち29.9%をヴェオリアに売却している。なぜ売却を決めたのか。同社は2016年から「脱炭素」「デジタル化」「分権化」を軸に事業改革を行っており、再生可能エネルギー

ギー、天然ガス開発、省エネの3領域に事業をシフトさせてきた。旗印は「二酸化炭素排出量ゼロを実現できるソリューション分野で、世界のトップリーダーを目指す」であり、今回の売却益は再生可能エネルギー開発(クリーンガスと洋上風力発電)の投資用とみられている。

## 2. ヴェオリアとスエズの応酬合戦

スエズの最高責任者ベルトラン・カミュは、「ヴェオリア提案はスエズの解体であり、フランスにとって悲惨な結果をもたらすだろう」、さらに「スエズは結婚する必要はない」とフランスの日刊紙ル・フィガロ紙に語った。スエズは敵対買収への対抗策として、フランスの水事業をオランダの財団へ移す対抗策を発表。また、フランスの民間投資会社アルディアン(1千億ドルの資産を保有する世界有数の民間投資ハウス)の創設者ドミニク・セネキエ氏に直接掛け合い、ヴェオリア提案の1株当たり18ユーロより高い18.50ユーロの価格を約束させた。しかし、翌日の10月5日にアルディアンは突然、撤退を表明。ホワイトナイト(白い騎士)は消え去った。

撤退理由は「アルディアンは、敵対的な買収案件には関わらない原則でビジネスを拡大させてきた。従ってこの提案は受け入れられない」と表明されたが、別の大きな力が働いたのではないかとうわさされている。さらに10月9日、パリの裁判所はスエズ・グループの社会経済委員会(CSE)の要請に基づき、ヴェオリアによる株式買収を停止する命令を出している。一方、ヴェオリアのフレロ会長はジャーナリストとのインタビュー

で「この歴史的な機会は、国際的な開発を促進し、イノベーション能力を強化し、フランス企業が世界チャンピオンを構築することを可能にするだろう」と、さらに「世界の水ビジネスが急速に成長し、海外進出に力を入れている中国企業との競争や、資産を買い占めるインフラファンドを心配している。我々はいつの日か、世界的な中国企業が目の前に現れることを危惧している」と述べている。

## 3. 合併に関し、グローバル・ウォーター・インテリジェンス(GWI)の見方

長年、筆者と交流のあるGWIの発行責任者クリストファー・ギャソン氏は11月のブリーフィングで次のように分析している。

スエズとヴェオリアは、世界における2大民間水供給者であるが、世界の主要な水供給企業20社のうち、中国企業は12社を占めている。ヴェオリアのスエズ買収計画は、ライバルの強さに対抗する新しい挑戦である。具体的には次の項目が挙げられる。

### ①産業用水事業の統合の加速(競

合他社より2~3倍のビジネス創出可能)。

②巨大資本へのアクセスは、競争上の優位となる(信頼性の向上)。

③ヴェオリアは、反トラスト法の理由からスエズのフランス水事業をメリディウム(仏・インフラ運用会社)に売却する計画である。

④ヴェオリアは、再び水ビジネス中心の企業となる。これまでヴェオリアは固形廃棄物やエネルギーへの投資を増やし、水への依存度を減らしてきたが、スエズとの合併により水事業は50%以上増加するだろう。

### さいごに

水業界にショックを与えたヴェオリアによるスエズ完全買収の動きであるが、巨大水企業の創出であるがゆえ、多くのステークホルダーへの説得、法的な規制のクリアランスなどが待ち受け、完全合併までに、少なくとも2~3年かかることが予想されている。世界水ビジネスの環境は、この大型合併により大きな転換期を迎えるであろう。



▲グローバル・ウォーター・インテリジェンス誌・発行責任者のクリストファー・ギャソン氏(左)と「世界水ビジネス市場」について語る筆者(2009年6月24日、シンガポール国際水週間で)